



温環境化では、日射量や風速と利用率に優位な関係性は認められませんでした。

この要因として、重田准教授は「人は外発的な動機付け（仕事など）が無い場合は、わざわざ暑い（不快）場所に長時間いることはしません。しかしながら、ヤギは反芻動物（一度飲み込んだ食べ物を再び口の中に戻して、再そしゃくする動物）であるため、自身の熱生産量や体力消費を抑制する必要があります。つまり、暑熱ストレスが高くても休息行動を優先にした結果ではないか推測しています」とのことです。今回は夏季の実験結果が主ですが、今後もゼミ生とともに研究を続けていくそうです。

※関連リンク

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ceis/papersen/2021/1/2021_84/_article/-char/ja/

Journal of Environmental Information Science Vol.2021, No.1 pp.84-89.
Title: Relationship Between Meteorological Factors and Utilization Rates of Free-Range Capra aegagrus hircus

Author: Yoshinori SHIGETA, Kai MATSUBARA

なお、この研究は英文誌「Journal of Environmental Information Science」へ掲載されました(2021年10月発行)。



▲ 研究対象とした雌ヤギ

JA鳥取県中央会様、鳥取県生活協同組合連合会様から食糧支援をいただきました

2021年11月8日にJA鳥取県中央会様、鳥取県生活協同組合連合会様から食糧

の支援をいただき、学生への配布を行いました。

保存期間の長い食品が詰められた個別の紙袋には、メッセージカードが入っており、受け取った学生からは「鳥取のあたたかさを感じた」、「お米は購入すると高いので非常にありがたかった」、「いただいた支援で今後も勉強や地域貢献活動を頑張っていきたい」等、多くの感謝の言葉が寄せられました。

ご支援の趣旨を尊重し、大学としても学生が安心して学び続けられるようサポートしていきます。

この度ご支援いただきました皆様に心より御礼申し上げます。



▲ 贈呈式の様子



▲ いただいた支援品

SDGsカフェ「もったいないキッチン」見る・知る・考えるを開催しました

2021年12月4日、本学の100講義室で『SDGsカフェ「もったいないキッチン」見る・知る・考える』を開催し、一般参加者3名と本学の学生12名が参加しました。

今回SDGsカフェは「フードロス」の課題について、映画の視聴（見る・知る）を通して考えることを目的に、環境学部の山本 竜維さんが企画し、司会進行も行いました。まず、映画「もったいないキッチン」を上映し、

上映後には参加者同士でペアを組み、感想や意見を出し合い、ワークショップを行いました。

映画視聴やその後のワークショップを通して、日本の食品ロスの量の認知向上などの重要性や消費者、生産者、販売者の三者それぞれの背景を知ることにより、身近な「フードロス」に対して我々のできることは何か、知ることの大切さ、そして何より食を楽しむことの大切さを考えるきっかけとなりました。



▲ 「もったいないキッチン」上映の様子

学生が鳥取警察署から表彰を受けました

本学環境学部の上田壮一さんと星中俊哉さんが人命救助に貢献したとして2022年1月17日に鳥取警察署から表彰を受けました。

2人は2021年12月28日の未明、市内の国道を車で走行中に、ミニバイクが乗用車に追突されるのを目撃。乗用車がそのまま逃走したため、被害者の後方に車を止め被害者の安全を確保。そして直ちに消防と警察に通報しました。二人の迅速な対応もあり、重傷を負った被害者も既に退院されているとのこと。

救助にあたった2人は「被害者が無事でよかった」「被害者がもう一度ひかれたら危ないと思い車を後ろに停めた。自分も事故を起こさないように生活したい」と話していました。



▲ 表彰を受けた学生